

切迫脳ヘルニアを伴う脳動静脈奇形の治療戦略

therapeutic strategy of arteriovenous malformation with impending herniation

中野渡 智, 日暮 雅一, 小野 敦史

小田原市立病院脳外科

脳動静脈奇形の手術に際し、術前の脳血管撮影は必要不可欠である。しかし、脳出血で発症し意識障害や瞳孔異常など脳ヘルニア徴候を認めた際に、脳血管撮影を施行してから一期的に血腫除去術とAVM摘出術を行うのか、あるいは可及的速やかに血腫除去術を行い、その後脳血管撮影施行し二期的にAVM摘出術を行うのかは判断に迷う所である。

我々は、切迫した脳ヘルニアの一刻も早い解除が生命予後・機能予後の改善に重要であると思われる事や、医療従事者や医療機器が脳外科のためだけに24時間稼動可能な状況にはない事などを考慮し、脳血管撮影を省略しただちに血腫除去術を行い、その後患者の全身状態が安定してから脳血管撮影施行しAVM摘出術を行っている。今までに、切迫脳ヘルニアを伴ったAVMの3症例に対しこの治療戦略を用いて良好な結果を得たので、その症例提示と文献的考察を加えて報告する。